

都小音研

令和8年3月12日第68巻451号

発行所
東京都小学校音楽教育研究会

事務所
東京都板橋区西台3-38-23
板橋区立志村第五小学校

一人ひとりのウェルビーイングを 目指して

東京都小学校音楽教育研究会
副会長 宮内 敬子
(中野区立武蔵台小学校長)

今年度、都小音研は研究主題を「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の喜びを」と設定し、研修、研究を深めてまいりました。

令和8年1月23日（金）には、山の手Bゾーンの研究大会を行いました。今回の大会主題は、「生き生きと音楽に関わり、学びを広げ 深め つなげる児童の育成」とし、午前中は千代田区・中央区・港区・新宿区・台東区の各区にて研究授業・研究協議を行い、午後は千代田区立お茶の水小学校に参集し、桐蔭学園小学校主幹教諭・岩井智宏先生によるワークショップ、研究発表、文部科学省初等中等教育局視学官・志民一成先生の講演会を行うことができました。

令和5年3月「次期教育振興基本計画（答申）」として、2040年以降の社会を見据えた教育改革の2本の柱「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられました。研究発表会の冒頭には、ウェルビーイングの要素としての「幸福感」「学校や地域とのつながり」「協働性」を意識して、山の手Bゾーンは「主体性」と「学ぶ喜び」をキーワードに研究を進めてきたことが語られました。いずれの会場においても、児童一人ひとりが感じ取ったことを基に、「どうして、そう感じるのか」「どうしたら、思いが伝わる表現ができるのか」を主体的に思考し、表現し、友達と協働しながら判断して作りだし、また自分に戻って考える、を繰り返していました。これこそが、主体的・対話的な学びの姿です。思考を繰り返し表現していくことで多様な方法やよさに気づき、考えが広がり深まっていくと感じました。2年間に渡り本研究にご尽力いただいた各区の先生方、熱心にご指導ご助言いただいた助言者の先生方、顧問の校長先生方、各区の教育委員会、関係の皆様へ感謝申し上げます。

「ウェルビーイングとはどんな状態を言うのか」とAIに尋ねたところ、「心も体も社会的にも良好な状態」であり、子どもにとっては、「安心できる場所がある」「自分のよさを発揮できる」「仲間と協働できる」と回答が出ました。また、教員にとっては、「働きがいがある」「心身の負担が軽減される」「専門性を発揮できる」と出てきました。何でもAIが答えてくれて便利になりましたが、ウェルビーイングを実現するのは人であり、私たち教員一人ひとりの熱意と工夫と指導力にかかっています。

都小音研は、ゾーン研究、各地区代表理事による情報交流、各種研究による専門性の向上、調査研究、音楽作品発表会、合唱祭・管楽器演奏会、会報、ホームページによる広報活動などを通し、時代のニーズに応え、地域の実態や他教科とのカリキュラムマネジメントを踏まえて年間学習計画を立て、目の前にいる一人ひとりの子どものウェルビーイングの実現を目指して研究をしてきました。子どもたちが音楽を通して感性を磨き、情緒を豊かにし、生涯にわたって自分の心を支え生活を潤いのあるものにするように、次年度も皆さんでやりがいのある研修・研究を深めていきましょう。



第68回 都小音研 研究大会「山の手Bゾーン大会」

■ 大会研究主題「生き生きと音楽に関わり、
学びを広げ 深め つなげる児童の育成」

令和8年
1月23日

音楽づくり



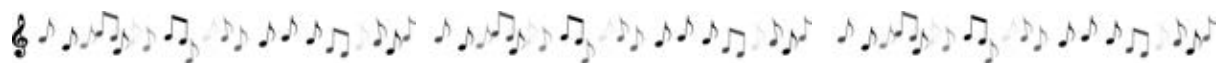
「お茶小ばやしをつくろう」

千代田区立お茶の水小学校(第4学年) 授業者: 向 祐佳

「お茶小ばやし」をつくるために、神田囃子から発想を得てつくった旋律を、班でつなげていく学習を行いました。実際に鑑賞した神田囃子を基に、主体的に活動に取り組む児童の姿が印象的でした。助言者の津田正之先生からは、教師自身が学び続けること、また、地域の人材を生かすための関係を築く必要性についてご指導いただきました。



歌唱



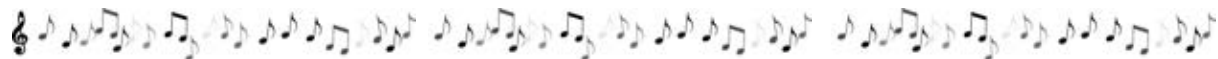
「わたしたちの『このみち』を表現しよう」

中央区立京橋築地小学校(第6学年) 授業者: 上出 奈央



『この道』の鑑賞で感じ取った作詞者・作曲者の意図や表現の工夫を生かし、詩と音楽との結び付きに着目して『このみち』の表現を深めていく題材でした。本時では、歌い方の工夫をグループで歌って試したり、聴き合ったりしながらよりよい歌声につなげていました。助言者の後藤朋子先生からは、表現の工夫をどのように歌声に結び付けていくか、実技を交えながらご指導いただきました。

音楽づくり



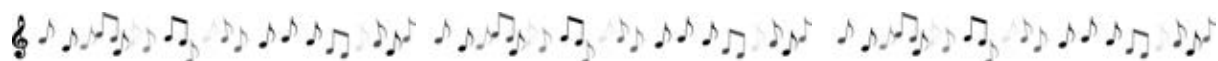
「世界の音楽でつながろう ～ハンガリーの踊りの音楽～」

港区立青山小学校(第5学年) 授業者: 佐々木 望美

ハンガリー民謡のリズムと音階を用いた旋律をグループでつなげる活動を行いました。各自の旋律の特徴を生かしながら、反復やつなげ方を工夫して構成を考え、友達と対話しながら取り組む姿が見られました。助言者の平野次郎先生からは、一人で作る時間の確保の重要性と、グループ活動における教師の支援方法についてご指導いただきました。



器楽



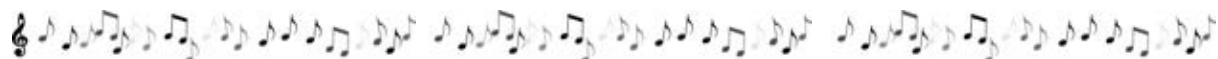
「日本の音楽に親しもう」

新宿区立江戸川小学校(第4学年) 授業者: 白鳥 あみ



『ソーラン節』を教材とし、子供たちが歌、伴奏(和楽器)、聴き手を交代しながら、どのようにすればみんなで合わせて演奏できるか、考えを出し合いました。助言者の中島寿先生からは、鑑賞や歌唱にもまたがる題材構成のよさ、児童の気付きを実現するための具体的な方法を教師が指導することの必要性等についてご指導いただきました。

鑑賞



「思いを音楽で表そう」

台東区立根岸小学校(第4学年) 授業者: 金森 智美

「組曲ペール・ギュントより『山の魔王の宮殿にて』」の鑑賞を通して、児童が聴き深めたい要素を選択し、くり返し聴いたり対話したりしながらグリーグの工夫を探っていました。助言者の館雅之先生からは、選択すること、根拠を基に対話すること、題材設定の大切さをご指導いただきました。



山の手Bゾーン大会を終えて

山の手Bゾーン大会推進委員長
中央区立有馬小学校 宮澤 裕之

「生き生きと音楽に関わり、学びを広げ 深め つなげる児童の育成」を大会主題に設定し、児童の心が音楽に向かい、主体的に音楽活動をする喜びを体全体で表現する姿を目指し、研究を推進してきました。5地区（千代田・中央・港・新宿・台東）の授業では、領域・分野は異なりますが、2年半一歩一歩積み重ねてきた研究が一つとなり、児童が生き生きと、喜々として音楽表現する姿がたくさん見られました。

本研究の成果の一つとして、夏休みに開催した5地区合同の交流研究会が挙げられます。楽しい雰囲気の中、ワールドカフェ方式で率直な意見交流が行われ、授業改善への意欲向上や協働研究する意義を実感できる充実した交流研究会となりました。

また、大会当日、午後の部では、桐蔭学園小学校 主幹教諭 岩井智宏先生のワークショップを企画し、明日への実践に直結できる内容を参会者全員で学ぶことができました。岩井先生の熱い思いがあふれるワークショップから、音楽表現する楽しさや素晴らしさを心や体で感じ取ることができました。

開催にあたり多くのご助言を賜りました助言者の先生方、各区音楽部担当の校長先生方、都小音研の先生方、そして2年半、本研究に携わった先生方に感謝いたします。本大会で研究したこの経験を、これからの授業研究、実践にさらに生かしていきます。

山の手Bゾーン大会報告

都小音研 研究部長
立川市立第三小学校 半野田 恵

令和8年1月23日、山の手Bゾーン大会（千代田・中央・港・新宿・台東）が開催されました。午前中は各地区の小学校を会場に研究授業と研究協議会、午後は千代田区立お茶の水小学校においてワークショップ、研究発表等を行いました。

現在、教育に求められている方向性と山の手Bゾーンの課題から大会主題を『生き生きと音楽に関わり、学びを広げ 深め つなげる児童の育成』と設定し、研究を進めてきました。児童が喜々として音楽に向かいながら学ぶ姿から、着実な実践研究を積み重ねてきたことが研究授業や研究発表でご覧いただけたと思います。また、志民先生のご講演では、各区のカリキュラムマネジメントの充実した取組について、今後このような取組が全国の学校教育に広がっていくとよいとお言葉をいただきました。

山の手Bゾーン大会に携わった皆様に心より敬意を表します。本大会の成果を東京都全体で共有し、次年度の中央Bゾーン大会へとつなげていきたいと思ひます。

第69回

都小音研 研究大会 「中央Bゾーン大会」

令和9年1月22日(金)

会場：〔午前〕立川市・小金井市・日野市・国分寺市
各市立小学校

〔午後〕たましんRISURUホール(立川市)

研究主題 「やってみたい！」が広がる音楽科の授業

都小音研では研究主題「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを」を設定し、研究に取り組んできました。

中央Bゾーン大会では、「やってみたい！」が広がる音楽科の授業の実現に向けて、8地区で研究を進めています。この大会を東京都、そして全国の皆様とこれからの音楽科教育を共に考える機会にしたいと考えています。

*大会申込みは、事前受付とする予定です。詳しくは、第二次案内でお知らせいたします。

講師：作編曲家 大田 桜子 先生

演題：音で表現する喜びを感じよう ～創造性を伸ばす楽しい音楽づくりへの提言 及び ワークショップ～

音楽づくりは、創造性を豊かにし、答えがないものを楽しむことができる。児童が戸惑わないように、教師が準備しておくことが必要である。ぜひ、子供たちと楽しんでつくってほしい。また、作曲での学びを、他の領域での学びにもつなげていくことも大切である。
(講演内容より)

1. 「誰にでも簡単に教えらる楽しい作曲・基本編」～沖縄音階を使って短い曲をつくってみよう～

- ① 8小節のメロディーをつくる。
- ② 拍子を決める。
- ③ リズムを決める。リズム例を用意し、決めたりズムを五線の上を書く。
※よい音楽や曲をつくることにこだわらず、好きな音を選ばせるとよい。終わりの音は、必ずドにする。4小節分選んだら、5・6小節目は1・2小節目と同じにすることで、まとまりができる。(教師の仕掛け)
- ④ 伴奏をつける。(伴奏例から選択する)
♪応用編♪
- ⑤ 伴奏のリズムを変えてみる。
- ⑥ メロディーのリズムを変えたり、和音を入れたりする。

2. 「歌づくりに挑戦してみよう」～既製曲のコード進行を参考に、短い歌をつくってみよう～

参考曲：『いつも何度でも』『もののけ姫』『カントリーロード』

詩：石原 一輝 詩集『雲のひるね』より「笑顔」

・コード進行、リズム、歌詞をつくっておく。旋律づくりに挑戦してから、歌づくりに挑戦してみるとよい。

- ① メロディーは、大譜表で16小節つくる。
- ② 1小節1コードでコードネームあるいは、音符を書く。
- ③ 歌詞を、全てひらがなに直す。
- ④ 言葉のイントネーションを考え図式にする。(子供同士でアクセントを考えさせてもよい)
- ⑤ 歌詞を文節で区切り、小節の上を書く。
- ⑥ 拍子を決める。
- ⑦ コード進行とイントネーションを参考に、メロディーをつくる。
・最初はコードの音を中心につくり、応用として拍の頭にはコードの音を入れ、後は自由につくる。
・コード音とコード音の間に、音を入れたり倚音を入れたりするとおしゃれになる。
・歌える音域でつくる。
- ⑧ 後半は少し音域を上げ、クライマックスをつくる。(構成感にもつながる)
- ⑨ 伴奏形の例を参考に、伴奏をつける。(伴奏形の例を用意しておき、1～2種類選ぶ)

研修会后「すぐに指導に生かせそう」「実践してみたい」との声が聞かれ、音楽作品発表会にもつながる学びの場となりました。今後も、継続的で実践的な研修会を企画して参りますので、ぜひご参加ください。(文責：広報部)

令和7年度 都小音研アンケート

結果報告

都小音研 調査部長 北根 克子 (西東京市立田無小学校)

『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実に向けて

今年度、都小音研では「ICTの活用状況」と『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体化に向けた実践例について調査を行い、523名の方からご回答いただきました。

前者については、97%の方が肯定的な回答をされ、多くの先生方がICTを活用した授業に取り組まれていることがわかりました。後者については、「個別最適な学び」の実践として、児童が自分に合う教材、場所、学習方法などを選んで学習する例や、学習支援ソフトやアプリ等を活用して表現と鑑賞の各領域での個の学びを確かなものにする例が寄せられました。また、「協働的な学び」の実践では、児童の意見を共有するために学習支援ソフトの共有機能や共同編集機能を活用した例や、グループ学習を円滑に進めるために配慮していること等についての例が多く寄せられました。アンケートから、ICTは個の学びを深めるツールであると同時に、他者とのつながりや共有が容易にできることから、一体化の支えとなるものであることが見えてきました。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるために大切にしていることとして、両者を往復させることが挙げられており、「主体的・対話的で深い学び」の実現とつながりを意識されていることも読み取ることができました。

都小音研では、教育の喫緊の課題を取り入れた研究に取り組んでいます。今後も都小音研の研究にご協力いただきますようお願い申し上げます。

計 報

名誉会友 柳田秀武先生、三宅清子先生がご逝去されました。
ここに追悼の意を表すとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

会 報 都 小 音 研

発行所：東京都小学校音楽教育研究会

発行人：会 長 山 根 ま ど か

編 集：広報部

印 刷：タイヨ一美術印刷株式会社